SPE Asia Conference 2006 参加報告

伊 澤 楨 一*

済州島での SPE Asia 2006

2006 年 6 月 7 日から 9 日までの 3 日間、韓国の済州島の済州グランドホテルを会場として The SPE Asian Plastics Technology Conference 2006 が共通テーマ「Bridging the Future with Plastic Technology」の下に開催された。

済州島は韓国の最南端にある火山島で朝鮮半島南端から約 100 km 西南に浮かぶ韓国屈指の観光地として知られている。現在も韓国の新婚旅行のメッカでもある。周囲約 200 km 程度と小さい島の中心に標高 1950 m の韓国最高峰（漢拏山）が在り、島全体が傾斜地で直接海に向かった坂道になっている。済州市は済州島最大の都会で島の北側にあり、大きな国際空港を備えていて世界各国からの観光客も多い。

SPE と SPE Asia Conference

SPE (Society of Plastics Engineers) は、個人会員によって構成されるプラスチックエンジニアの世界的な組織である。本部は米国コネチカット州にあり、1942 年の創立でプラスチック分野での世界で一番長い歴史を持つ協会である。会員は全世界に 20,000 人以上居り、プラスチックに関するあらゆる情報の普及活動を行なっている。月刊の機関紙 Plastics Engineering, Polymer Engineering & Science を含めて多くの専門的な出版物の発行も実施している。更には国際技術会議（ANTEC）や地域技術講演会（RETEC）の開催、各種セミナーや教育プログラムなど多岐にわたる活動の特徴としている。

SPE には 60 を超す支部が各地に置かれており、アジアには日本、韓国、台湾、香港、インドの各国とオーストラリア&ニュージーランド支部を加えて 6 支部がある。2001 年秋に開催された SPE アジア支部長会議で、アジア支部として組織の重層化を図る案に代わってアジア地区内での技術交流を行う SPE Asia Conference の設立が議決された。第 1 回目は SPE Asia Conference 2003 として、2003 年 11 月に日本支部が主催して名古屋市で開催した。今回はこの Conference の第 2 回目に当る。

写真 1 国際空港から会場への出迎えバス

SPE Asia Conference 2006 の開会

開幕日の 6 月 7 日には国際空港に「歓迎 The SPE Asian Plastics Technology Conference 2006」と掲示を出した出迎えのバスが用意されていて（写真 1）、会場にスムーズに到着できて丁寧な登録手続きが行なわれた。

初日の定刻午後 5 時に、今回の国際会議（SPE Asia Conference 2006）を主催した SPE Korea の実行委員会から李暎準氏が登壇して幕が開けられた（写真 2）。その司会の下で参加者全員が一堂に会して（写真 3、4）開会セレモニーが始まった。セレモニー全体がバンケット方式になっていて、開会セレモニー、アジアフォーラム、ディナー、韓国の民族音楽と踊りを示すパフォーマンスの四つの行事が行なわれた。開会セレモニーの最初に韓国及び済州島の紹介がビデオを使って行なわれた。引き続いて、会議全体の運営に関するスケジュールが発表されると同時に SPE Korea の功績者に対する表彰式が行なわれた。

開会セレモニーに続くアジアフォーラム（SPE Asia Forum）では、アジアから参加した各国の SPE 代表による

* Izawa, Shinichi
東京工業大学
東京都目黒区大岡山 2-12-1 (〒152-8552)
2006.9.10 受理

写真2 開会セレモニーを司会する SPE Korea の李暎準氏

写真4 会場を飾る氷の彫刻

歴史、現状、展望などの発表が行なわれた。このアジアフォーラムにおける各国支部からの活動報告は次の様なものであったが、6支部の内3支部からの出席が無かったのは少々残念であった。

- ・日本支部からは、今年で満50周年を迎える日本での支部活動の歴史を紹介した。それらに加えて現状の支部活動をここ5年に絞って写真を示しながら説明した。今年10月に実施する50周年記念の日本支部 RETEC の企画を紹介して、今回の参加者に訪日を呼びかけた。
- ・台湾支部の秘書を務める邱政文氏は、国内固有の SPE

写真3 開会セレモニー会場の飾り付け

写真5 SPE Korea の金大植氏の挨拶

会員を集め始めたこの2年ほどで、500名を超える活動を行なっていることを報告した。

- ・アメリカ南西部支部からの Dr. Jamal El-Hibri は、SPE 本部のメンバーが参加できなかったのがアメリカから代表して出席したと述べ、近年メンバーは減少しているが米国での SPE の位置は相変わらず高い。活動としてはセミナーの開催、講習会による啓蒙などを中心とする支部活動を行なっていることを報告した。
- ・韓国支部は、現支部長の金大植氏（写真5）が、韓国のプラスチック工業界の活発な現状を詳しく紹介し、多数のメンバーがここ済州島に参集していることに感謝を述べた。多くの参加メンバーは、今回の The SPE Asian Plastics Technology Conference 2006 の正式スポンサーである21社の会社派遣の方々と見受けられた。SPE 韓国支部は、毎年支部長が交代しているが、三星グループが主体となって支えている。韓国支部の幹部の殆んどが日本語を理解し、非常に親近感があった。バンケットはビュッフェスタイルの会食であり（写真6）、このディナーの最中が各参加者による交流の場となっていた。各国からの参加者の皆さんが名刺の交換をしたり旧交を暖めたりする姿が随所に見られた。今回の Conference

写真6 バンケット会場風景，主テーブルには主催者の顔が見える

写真7 韓国の民族舞踊のパフォーマンス

写真8 Plenary Lecture を行なう葛良忠彦氏

写真9 討論会の会場風景

への日本からの参加者は全部で9名あり，主だった韓国側主催者メンバーとの交流を行なった。

会食が進んだ頃合いを見計らって，舞台には韓国の民族音楽，民族舞踊などの専門家が次々と登場してそれらのパフォーマンスが示された。写真7はその一例である。

技術講演会の内訳

今回の Conference 2006 に於ける技術報告の発表件数は，口頭発表が合計で 23 件，ポスター発表は合計で 27 件あった。内訳を示すと口頭発表は，SPE Asia Forum が 4 件，Polymer Processing & Additives が 8 件，High Performance Materials が 5 件，Nanocomposites が 6 件という分布であった。ポスター発表は，Polymer Processing & Additives が 8 件，High Performance Materials が 11 件，Nanocomposites が 8 件という分布であった。

各国からの発表参加数は，口頭発表で，日本からが 7 件，台湾からが 2 件，米国からが 2 件あり，それ以外の全ての口頭発表と全てのポスター発表は，韓国国内からの参加であった（その内の 1 名はインドからの留学生で KRITC の教授との連名であった）。

日本からプレナリーレクチャーの葛良氏など

第 2 日目の冒頭に全参加者が一堂に会する Plenary Lecture が日本からの葛良忠彦氏によって行なわれた（写真 8）。標題は，「Newest Trends of Blow Molding Technologies」で，日本でも評判となっている豊富な実例によるブロー成形技術を紹介された。特に食品包装分野に留まらない広い工業分野への応用例に注目が集まっていた。

参加発表者の中での日本人発表者の役割は非常に大きかったことが判る。Asia Forum での日本支部の紹介と葛良氏の Plenary Lecture の他，日本からの発表を一通り紹介する。Polymer Processing & Additives のセッションでは，日本製鋼所の菊川健治氏による「Latest Injection Molding Process Technology and its Equipment」，神戸製鋼所の長岡猛氏による「Long Natural Fiber Reinforced Plastics : Its Properties and Manufacturing Process」の 2 件，High Performance Materials のセッションでは，日本油脂の杉浦基之氏による「High Performance Multicomponent Polymer System and Their Applications」，三菱エンジニアリングプラスチックの村上幸宣氏による「Polycar-

写真 10 海鮮料理のレストランでの国際親睦会のスナップ

bonate Based Material Development for Information Technology」の 2 件, Nanocomposites のセッションでは, 山形大学の 高橋辰宏氏 による「Alignment Control of MWCNT in Polymer by Magnetic or Electric Field」の 1 件が報告され注目された. 討論会は二つの会場に分かれて実施されたがその一つの会場の風景を写真 9 に示す.

ポスターセッションは 2 日目の午後に会場内の大ホールを利用して行われた. 全てのポスターの表現は英文になっていたが, 多くの聴衆が韓国人であることもあって, 討論が韓国語になっている部分が多い様に感じられた.

国際交流親睦会

2 日目の夜には, 漁港の一面にある海鮮料理のレストランに場所を移して日本からの参加者を中心とした懇親会を開催し親交を温めた. 日本からの参加者 9 人の内, 6 名が出席され, 韓国の焼酎と共に料理と会話を楽しんだ. 同じレストランで, 交流会を行っていた韓国 SPE の主だった役員の方々とも途中から合流する形となって, 和やかな国際親睦会となった (写真 10).

今回の SPE Asia Conference 開催を主催する支部として, SPE 台湾支部にお願いした.

賛助会員ならびに会員の皆様へ

「知りたい, 見たい, 訪ねたい—成形加工の元気な仲間—」の訪問取材を希望される会社を募集中

「成形加工」誌には, 「知りたい, 見たい, 訪ねたい—成形加工の元気な仲間—」を掲載しています. 本企画は, プラスチック成形加工に携わり, 日本のものづくり産業の基盤を支えている活気ある企業を, 本誌編集委員自らが訪問取材して, 会社概要および自慢の製品・技術を広く会員に紹介することを目的としたもので, 詳細は以下のとおりです.

1. 主として賛助会員あるいは正会員の所属する会社を, 本誌編集委員が訪問し, 新製品・新技術等を, 実際の製品を見て, あるいは現場見学を交えて取材し, 記事としてまとめ上げる. 会員による原稿執筆は一切不要.
2. 取材は, 2 時間程度.
3. 原稿は, 図表を含めて刷り上がり 2~3 ページとする.
4. 掲載料は無料.

この「知りたい, 見たい, 訪ねたい—成形加工の元気な仲間—」の訪問取材を是非ご検討下さい.

本企画は, 年間 4~5 件を掲載する予定です. 記事のスタイル, 内容等につきましてはすでに掲載されている幾つかの記事をご参照下さい.

「成形加工」編集委員長 大嶋正裕